如何おすみも六月之試験首尾能済下等卒業当時上等八級ニ至たり。内丸ハ新蔵取払紙丁裏まて一円公園地ニ成中央ニ山を築其辺ニ招魂社引移ニ成ると云ふ此節普請最中也年々歳々内丸之模様変換する也普請好之県令と見ゆる。西南事件ニ付巡査召募ニ応する当県之族大凡八百名と之事去月六日までに立払ニ成此節東京滞在之内賊も勢力尽無程鎮定と之新聞紙上之評なれハ右八百名も無用に成て帰県為致度訳ハ志願ニ任セ仁蔵三八之撰もなく老少もあれハ戦地ニ臨たらハ人先ニ不逃とも云はれす左有てハ外聞無此上次第なれハなり此節東京にてすら百二十度之暑之由況ヤ戦地之事恐察せられたり宅命ハ九州近海回艦之由両度文通有之無事之趣也末二郎も無事通学致居よし。河上氏此節ハ帰県中也久振家族面話互之歓喜被察たり同人留主中(ママ)ハ藤村か一条治士ェ托し書状可差出。藤村ゟ郵送之新聞紙代去年十一月ゟ五月迄之分相払たり心得ニ申越す。六月廿五日桜山神社元聖寿寺跡ェ御遷宮其節我等も雇ニ成祭服にて神饌并御祭式ニ携前後四日新御宮ェ相詰たり此事去月申通たるやにも存られたれとも思出之まゝ記也。米田伯父様三月中風に当り六月廿九日終泉下之客と成齢七十九年四ヶ月也其外家内并親類とも無事消光せり。鍵屋も先年ゟ之公事に付入費相嵩此度大改革之積にて忠兵衛六月下り此節取調中也痛入たる事也

長閑

八月一日認

武夫殿

猶以藤田ゟ一封相達去月一日差出候処取紛今度差出候也

30 明治10年8月1日 菊池長閑

第七号八月一日認

此元昨今相応之暑気也然し未た余家にて九十度ニ不至(世間ハ其已上之家もあるよし)夜分寝苦敷事なし夫故か当年ハ蚊ハ薄す土用前ハ多分雨勝土用入てゟ快晴田作ハ昨年ゟハ繁殖せす丈生ハ能早穂ハ場処に依八九分通出穂之由畑作も悪敷ハ不聞其地昨今之暑ハ如何去月試業之時節と思はれる嘸勉強も時節柄不安事と被察試業之出来

（封筒表）
「亜米利加国ボストン府
ホートウイン。ストリート
二十二番（武夫注記）
菊池武夫殿」
（封筒裏）
「八月三日　午前時　午後時　発
日本
岩手県陸中国盛岡外加賀埜
八十六番
菊池長閑
安」

（武夫注記）
「答済」

（同封　8月3日　菊池壽美）

久ク打絶エ不得趨問多罪ノ尽斯伏シテ乞フ御矜宥ヲ禱ル陳レハ即今当県ニテ暑気甚タ厳ニシテ難凌玉地気候如何候先ハ足下ノ起居ヲ伺フ也然レ共弊屋ニテハ挙家共ニ無事依之ニ御投念可被下候時ニ妾六月廿九日下等小学第一級卒業致シ候乍序函書ヲ以テ此事御知セ申上候不備

八月三日　菊池スミ

御兄様

（封筒表）
「御兄様」
（封筒裏）
「菊池壽美」